



平成 21 年 9 月 18 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 キ リ ン 堂  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 寺 西 忠 幸  
 会 長 兼 社 長  
 (コード番号 2660 東証第一部・大証第二部)  
 問 合 せ 先 専 務 取 締 役 井 村 登  
 (TEL. 06-6394-0039 (代表))

平成 22 年 2 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 業 績 予 想 の 修 正  
及 び 特 別 損 失 の 発 生 に 関 す る お 知 ら せ

平成 21 年 3 月 31 日の決算発表時に公表しました平成 22 年 2 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (平成 21 年 2 月 16 日～平成 21 年 8 月 15 日) の業績予想 (連結・個別) を下記のとおり修正いたします。また、当社並びに当社連結子会社において、特別損失が発生する見込みとなりましたので併せてお知らせいたします。

## 記

## 1. 当第 2 四半期連結累計期間の業績予想の修正 (平成 21 年 2 月 16 日～平成 21 年 8 月 15 日)

## ①連 結

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A) (平成 21 年 3 月 31 日)	55,800	1,100	1,200	△130	△11.47
今 回 修 正 予 想 (B)	52,911	582	714	△485	△42.86
増 減 額 (B-A)	△2,888	△517	△485	△355	
増 減 率 (%)	△5.2	△47.1	△40.5	—	
(ご参考) 前中間期実績 (平成 21 年 2 月 期中間期)	53,752	1,063	1,165	382	36.50

## ②個 別

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A) (平成 21 年 3 月 31 日)	51,200	1,000	1,100	80	7.06
今 回 修 正 予 想 (B)	48,685	667	834	△167	△14.80
増 減 額 (B-A)	△2,514	△332	△265	△247	
増 減 率 (%)	△4.9	△33.3	△24.1	—	
(ご参考) 前中間期実績 (平成 21 年 2 月 期中間期)	49,087	1,089	1,222	400	38.14

## 2. 業績予想の修正理由について

### ①連 結

当第2四半期連結累計期間において当社グループ（当社及び連結子会社）は、中長期的な成長基盤の確立に向け、収益率改善を優先すべく、出店スピードを抑え、既存店活性化対策に取り組んでおります。

具体的には、来店促進を図るためのクレジットカードの導入や販売価格の見直し、ヘルス&ビューティ商品の販売強化などに加え、改正薬事法施行や新型インフルエンザ発生による関連商品需要への対応にも努めてまいりました。

しかしながら、消費者の買い控え傾向の強まりと企業間の競争激化による来店客数が伸び悩んだことや、天候不順による季節商材の売上不振により、売上高は529億11百万円（前回予想比5.2%減）と当初見込みを下回る見通しとなりました。

また利益面におきましても、売上総利益率の低下をカバーすべく、コストコントロールに注力し、販売費及び一般管理費は計画を下回ったものの、売上総利益の減少を補うには至りませんでした。

結果、「1. 当第2四半期連結累計期間の業績予想の修正」のとおり、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益いずれも前回予想を下回る見通しとなりました。

### ②個 別

個別業績の修正につきましても、主として連結業績と同一の要因によるものであります。

## 3. 当第2四半期連結累計期間における特別損失の発生及びその主な内容

### ①連 結

#### ・たな卸資産評価損

営業店内の商品（調剤薬品を除く）の評価基準及び評価方法については、従来、売価還元法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より売価還元法による低価法に変更しております。この変更は、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号平成18年7月5日公表分）が適用となることにあたり、当社及び連結子会社の評価基準及び評価方法を見直したところ、売価還元法による低価法を採用することとしたものであります。

当第2四半期連結累計期間の業績予想に折込み済みではありますが、当該会計処理の変更にあたり、期首商品に含まれる変更差額919百万円をたな卸資産評価損として特別損失に計上いたしております。

#### ・減損損失

「固定資産の減損に係る会計基準」を適用することに伴い、当社及び当社連結子会社が所有している店舗設備等の一部について減損損失が237百万円発生、さらに当社及び当社連結子会社の不採算店舗の閉鎖に伴う店舗閉鎖損失が94百万円発生する見通しであります。

以上により、当第2四半期連結累計期間業績におきましては、12億55百万円を特別損失に計上する予定であります。

## ②個 別

### ・子会社株式評価損について

当社連結子会社である(株)ジェイドラッグの株式について、監査法人との協議の結果、同社の財務状況を鑑み、会計上厳格かつ保守的に見積もることが相当であるとの判断に至りました。

その結果、当社個別業績におきましては、子会社株式評価損として72百万円を特別損失として計上する予定であります。

なお、連結業績におきましては、子会社株式評価損は連結処理上消去されるため、特別損失への計上はございません。

### ・当社個別業績におきましても、連結と同様、たな卸資産評価損の計上に加え、減損損失等を特別損失として計上する予定であります。

以上により、当第2四半期累計期間個別業績におきましては、9億96百万円を特別損失に計上する予定であります。

- (注) 1. 連結・個別の通期業績予想につきましては、現在精査中であります。
2. 当社（連結・個別）は、平成21年9月24日に第2四半期決算短信発表を予定しており、詳細につきましては、決算発表にてご報告させていただきます。
3. 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上